

市長記者会見記録

日時：2025年8月5日（火）14時00分～14時26分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《「みなとみらいスマートフェスティバル2025」の火災事故について》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入ります。まずは、幹事社様からよろしくお願いいたします。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。幹事社のNHKといたします。昨日、横浜市のみなとみらいの花火大会で火災の事故が発生しました。まだ昨日の今日なので、原因とか状況というのはつまびらかになっていないんですけれども、川崎市のほうでも10月に花火大会が予定されていますけれども、昨日の事故を受けて注意点、もしくは何か気をつけて進めることとかあったら教えていただければと思います。

【市長】 昨日の火災もそうですけど、東京湾のほうでも火災のようなことが起こっているの、そういった意味では、運営面のところで気をつけていかなければならないんだと思いますし、花火大会のときにはそういったところにしっかりと留意して取り組んでいきたいと思っております。

《カムチャツカ半島付近で発生した地震による津波注意報等について》

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。先日、カムチャツカ沖の地震の関係で津波の注意報が本市にも出されましたけれども、その対応とか今後起き得る地震対策とかも含めて、お気づきとか感じられることがあったら教えてください。

【市長】 最初に3メートルというのが出たときには、本当に冷やっとしたというか、大変なことが起きるのではないかという緊張感が走りました。各局、例えば港湾局ですとか臨海部ですとか、学校はもちろんのことですけれども、関係の様々なところで迅速に対応ができたとは思っております。

一方で、私も津波注意報警報の後、臨海部のある工業団地のところに伺いましたけれども、自主的に避難を行っていただいている企業と、呼びかけてもなかなか、正常化バイアスというのでしょうか、避難に応じない方もいらっしゃるということで、今回は幸いにして被害はなかったですけれども、警報が出て、大きな影響が出るとき

にも逃げないということについては、より真剣な啓発を、それぞれのエリアでどういうリスクがあって、それについてどういう避難行動を取るべきなのかというのを徹底していく必要があるなということを改めて感じたところです。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

NHKからは以上です。

《小児医療費助成制度について》

【読売（幹事社）】 同じく幹事社の読売新聞といいます。よろしくお願いいたします。
私のほうからは、小児医療費助成制度と特別市について2点聞かせていただきます。
先月24日の文教委員会で、小児医療制度の拡充を求める陳情が趣旨採択されました。
法的な拘束力はないにしても、8,000人以上の署名のある陳情が趣旨採択された
ということ、まず市長としてはどのように受け止められているのでしょうか。

【市長】 趣旨採択という議会での判断はしっかりと受け止めさせていただいております。

【読売（幹事社）】 市の説明の中で、国の責任で全国一律の制度にすべきだという話
がありましたけれども、それはそのとおりでしょけれども、現実には、「多摩川格
差」という言葉もあるように、自治体格差がある中で、市民の感情としては、なぜ川
崎市はそういうふうにはできないのかと感ずるのが率直な市民感情だと思うんですけれ
ども、それについてはどのようにお考えになりますか。

【市長】 昨日にもこども家庭庁の長官にお会いさせていただいて、指定都市市長会、
そして議長会としての要請という活動の中にも、やはりこういったものは国の責任で
もって一律で行っていくべきだということを改めて要請させていただきました。一方
で、中学校3年生まで、現行のところまで引き上げたときも、理屈は一緒ですけれ
ども、この間繰り返し繰り返し求めているにもかかわらず、国で御対応いただいてい
ないということは非常に問題だと思っております、それについては本市にとっても、
周りの状況を見ますと課題感を持っているところです。

【読売（幹事社）】 国がやるべきことなんでしょうけれども、現実には格差がある中で、
ほかではやっているところがあるのにというところが多分、市民的な納得できないこ
とだと思うんですけれども、その辺についてはどういうふうに説明されていきますか。

【市長】 これから、小児医療費に関わらず、いろんな課題にも取り組んでまいりま
すが、確かにそれぞれ制度上、自治体によって取組の差異はございます。そういった
中でしっかり判断していくべきことだなとは思っています。

【読売（幹事社）】 お隣の横浜市長選で現職が、医療費助成の拡充を公約にして当選

されました。川崎市長選でも争点の一つになり得ると思うんですけども、立候補を表明している市長としてその辺はどのようにお考えになっていますか。

【市長】 選挙云々に関わらず、やはり横浜市さん、山中市長がその公約を掲げられたことは非常に大きいことだなとは捉えております。

【読売（幹事社）】 差し支えない範囲で、どういうふうに臨むというところが、市長として、候補者としてどういう、あれとなった場合にはどのように臨むか。

【市長】 自分の選挙の話については、公約については、しっかりまとまった段階でお示ししたいとは思っておりますので、どこの政策がどうのということを今申し上げる段階ではないと思っております。

《特別市について》

【読売（幹事社）】 話題変えまして、特別市です。あした総務省に要請するというところで、秋にも予想される地方制度調査会での議題にして諮問してほしいという要請を行うことになっていきますけれども、市長、前から夏場が勝負どころだとおっしゃっていますけれども、大きな節目を迎えたと思うんですが、その辺の意気込みを改めて教えていただけますか。

【市長】 総務省のワーキングあるいは研究会でも一定の方向性が出たところでありますので、次期地方制度調査会がいつ行われるかというのは正直まだ分かりませんというのは、秋にも予定されているというのは通常どおりの話であればそうだと思うんですけども、今、参議院選挙後、参議院選前と状況が違うので、どういう形になっていくのかというのは、私たちもどうなるんだろうというのは心配しているところなんですけれども。ただ、私たちの訴えというのは、これまで以上にしっかりと政府、国会議員の皆さんにお伝えしていかなければならないなという思いに変わりはございません。

【読売（幹事社）】 結構です。

【司会】 では、ほかの社、お願いします。

《ふるさと納税について》

東京新聞さん、お願いします。

【東京】 東京新聞です。先日、総務省がふるさと納税に関する現況調査結果を報告して、川崎市では寄附受入額が過去最大になる一方で流出額も過去最大にという状況でありますけれども、今回の結果を、受入れの部分、また流出の部分、それぞれお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 まず、流出の部分というのは、以前と比べて伸び率は低くなってきている

ということではありますけれども、額としては過去最大という形で、依然として伸び続けていることに非常に危機感を持っているということでございます。と同時に、やはり受入れの拡大というところに今、全力を注いでいるところでありまして、これまでも申し上げてきたとおり、制度そのもののしっかりとした改正を行っていただくという要請は引き続き力強く訴えていくとともに、私たちの努力でできること、すなわち受入額をとにかく最大化していくことに全力を尽くしていくということに変わりはございません。トータルでもってどれだけ影響額を圧縮するかということに注力してまいりたいと思っております。

《川崎市議会議員への殺害予告等について》

【東京】 ありがとうございます。話変わりますが、先日、参院選後に後藤市議に対して殺害予告があったということが明らかになりました。これに対して、市長としての御見解を伺えますでしょうか。

【市長】 実は私、その報道の一文を読んでいる状況で、一体どういうことを言われているのかとか、殺害予告の詳細が全く分かっていない状態なので、コメントできないので申し訳ありません。

【東京】 いずれにせよ、市議という公人に対する殺害予告って重いものだと思うんですけども、その内容はともかくとして、殺害予告を出されたということに対することについてはいかがでしょうか。

【市長】 それはもう絶対にあってはならない許されない行為だと思います。ましてや政治家という、民主主義にとって、市民の皆さんを代表する方に対する、そういったことは絶対にあってはならないことだと考えています。

【東京】 ありがとうございます。

《参議院議員選挙について》

【司会】 それでは、朝日新聞さん、お願いします。

【朝日】 朝日新聞でございます。参院選挙が終わりましたので、その受け止めと今回の結果の特徴ですね。あと、先ほども政権の形が不透明だとおっしゃっていましたが、市政に対する影響が何か感じられるのでしたら教えていただけますか。

【市長】 各政党がどれだけ伸ばしたか、減らしたかということに対しては、その数字どおりに受け止めておりますので、特にそれに対しての感想はないんですけども、一方で市政に対する影響という意味においては、少数与党、参議院でも与党が少数ということは、どういう政策決定のプロセスがなされるのかということが極めて不透明というか、不透明とは言わないですね、先行きがなかなか見通せないということなの

で、そういった意味で、例えばこれまでの政府の骨太を中心とする政策の方針が本当に実行されていくのか、いかないのかというのは本市も大きな影響を受けてまいりますし、地方自治体全体にとっても非常に影響が大きいのではないかと考えています。そういった意味で、ぜひ与野党ともに前向きかつ合理的な議論のプロセスを有権者の皆さんにちゃんと見せていただくことがすごく大事なのではないかと考えています。与党の責任と野党の責任がより重くなってくるのではないかなと考えていまして、そういった意味では、どういう状態であれ、国民に対する責任というのは国会として負っているわけですから、そういった意味での緊張感かつ前向きな議論が進められることを心から本当に願っております。

【朝日】 ありがとうございます。

【司会】 それでは、毎日新聞さん、お願いします。

【毎日】 毎日新聞です。関連で、参院選で参政党が躍進しました。この動きを市長は、昨今の欧州の保守政党の躍進と軌を一にしていると見るのか、それとも、例えば昨今の日本の物価高とかそういう現政権への不満の受皿として保守政党としての参政党が選ばれたのか、また、ほかの見方があるのか、市長はどのようにお感じでしょうか。

【市長】 私の見方とすれば単純に、アメリカあるいは欧州で起こっている状況からの飛び火ではないとは思っています。完全にないという話ではないとは思いますが、しかし、その流れから捉えるというのはちょっと違うのではないかなとは思っています。現状に対する不満の表れということだと思いますし、その受皿というものに、強いメッセージのところに引かれるというのではないかと私なりには解釈しておりますけれども。

【毎日】 10月の川崎市長選、こういう国政の動きが今度の川崎市長選にも流れが、同じように影響を受けるとお考えでしょうか。

【市長】 うーん、これはどうなんですかね。国政と地方はまた違う、川崎市政の話というのは市民の生活に極めて直結していることでありますので、そこ思想的なものとはあまり関係ないのではないかなとは思っておりますけれども、どういう動きになるかというのは最近よく分かりませんので、注視はしていきたいと思っております。

【毎日】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問ございますでしょうか。

【NHK（幹事社）】 引き続きNHKです。参院選に関連して、細かい話なんですけ

ど、御市の開票業務なんですからけれども、毎選挙、決定するのが遅いイメージがあって、今回もたしか選挙区においては4時ぐらいだったと思うんですけれども、これについてまず、どう思っているかというのと、今後、いや、そうはいつでも時間をかけてでもしっかり正確にという考え方もあるかと思うので、そこら辺をどうしていかれたいと思っているか教えてください。

【市長】 まずは、今回の話は極めて初歩的なミスというところもあって、そのことによって多くの方に御迷惑をおかけしたということ、それは本当に率直に反省しなければならぬと思いますし、改めて開票事務というのはいかに効率化して正確にやるかということでありますので、そのことについて真摯に反省し、次の改善に生かしていただきたいと思っています。

【NHK（幹事社）】 抱える有権者の数ですとか人員とか含めて、どうしてもある程度遅くならざるを得ないというところはあるのでしょうか。

【市長】 いや、時間がかかってしまうというのは、これまでもいろんな工夫はしてきたと思うんですけど、ほかの自治体でも開票事務の効率化のことについて先進的に取り組んでいる事例というの、私、昔からそこにはかなり関心は持っているところです。自治体によって規模だとか、いろんな要因がある中でありますけれども、いろんな条件がある中で、それでも最大の効率化をしなければならないところの問題意識は持っておりますので、その辺りは選管事務局のところにもしっかりと頑張っていたいただきたいと思っています。

ただ、1点難しくなっているのは、地域の人材の皆さんが、御協力をお願いしております自治会、町内会の役員の皆さんが高齢化していることによって、負担が厳しくなっていて、今回はさらに職員負担を拡大して行った初めての選挙でございました。職員の動員数も相当なものでして、そういった意味でも本当に事務の効率化、正確を求めつつも効率化していくことが、働き方改革の観点からも大事だと思っております。そこは正直、私自身、今回の件で言うと、あまりにもお粗末かつ、次は万全を期して、次は川崎市長選挙になりますので、多くの方に御迷惑をかけないような取組をしてもらいたいと思っています。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

《日産自動車株式会社追浜工場の車両生産終了等に伴う対応について》

【司会】 共同通信さん、お願いします。

【共同】 共同通信と申します。少し前の話になってしまうんですけれども、7月16日に日産の追浜工場の車両生産終了に伴う中小企業向けの特別相談窓口を設置され

たと思うんですけれども、こちらに現時点で相談等寄せられているものがあれば教えていただきたく思います。

【市長】 ありがとうございます。数件あったと思いますけど、事務方、誰か来ていますかね。来てないですね。後ほど事務局からの説明という形でもよろしいでしょうか。

【共同】 ありがとうございます。

【市長】 すみません。

【共同】 改めてになるんですけれども、やはり県内企業だけあって、影響というのは、規模がはっきりとは見えない中で、ある程度川崎市にも影響があるものと思うのですが、この相談窓口への相談も含めて、市民の方に何かお伝えすることがあれば伺えればと思います。

【市長】 先日もお話ししたかもしれませんが、車の部品そのものを製造しているところは、川崎市内の事業所としてはそれほど多くはない状況でありますけれども、しかし、それだけではなくて、今回閉鎖することになると、関連のところも含めて大きな影響を受けると思います。そういった意味で、何かお困り事がありましたら、ぜひ私どもの窓口を使っていただきたいと思いますし、必要なサポートをさせていただきたいと思っております。

【共同】 ありがとうございます。

《等々力緑地再編整備事業について》

【司会】 東京新聞さん、お願いします。

【東京】 度々すみません。等々力緑地について、事業費の圧縮について一定の方向性が示されましたけれども、今回、フロンターレなども影響があるのかなと思うんですが、市長として、今回の市の方向性についてどのように感じていらっしゃるか、改めて伺えますでしょうか。

【市長】 これまで再編については、いろんな関係団体からの御要請をいただいてまいりました。単純にコストが上がるから、この話はなかったことにすることができない中で慎重に検討してきたところです。頑張って圧縮できるところ、あるいは、フロンターレさんも含めて少し御負担をかけるところはどうしても出てきてしまいますが、それでも最小限の影響にとどめようという部分の判断でございますので、今後さらに事業費の精査は進めてまいります。しっかりと、何よりも市民の皆さんに再編してよかったと言ってもらえるような、首都圏での唯一無二な公園にしていくべきだと私は思っています。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに。

《株式会社東芝の本社機能の移転について》

朝日新聞さん、お願いします。

【朝日】 朝日新聞でございます。8月1日に東芝が本社地を川崎に移転しましたので、改めてコメントをいただけると。よろしくお願いいたします。

【市長】 まず、東芝さんが川崎に戻ってきて、本社を戻していただくことは川崎にとっても非常に歴史的に大きい、うれしいお話です。これから研究開発、それから営業という形で、いろんな職種の方たちが川崎に集結するというのは、東芝さんにとっても戦略的に意味があると思いますし、私たち川崎市としても、富士通さんが去年は本社、東京から川崎へ移動してきたように、だんだん研究開発に携わる研究者の皆さん、川崎に来ていただいているので、エリアとしての価値向上に向けた、そういった相乗効果が出せるような、エリアマネジメントではありませんけれども、そういったものやっつけていかなければ、やっていくことによってさらに価値を生み出していく、東芝さんとも一緒に価値を生み出していきたいなと思っております。

【朝日】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問よろしいでしょうか。

よろしければ、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当